

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
	〈テーマ1：住宅環境の整備〉 ・昭和50～59年建設の272戸の現状は。 →美英団地は入居者なし、美園団地は入居率42%古い団地は退去後の修繕費が高額で新規入居が困難なため、仲町団地のように80戸→30戸に削減する方向で計画的に進めている。 ・空き家情報の公開について、北海道内でも空き家バンクをオープンに公開している自治体では1か月以内に成約するケースが多い。美幌町は不動産業者が参入できる環境にあり比較的オープンな方だが、売買の空き家マッチングをさらに進めることが有効である。 ・空き家外部提供制度（令和8年1月開始）では、所有者の同意を得た物件について、町が認定した団体（不動産業者・工務店・自治会連合会等）に情報提供できる仕組みを構築した。売買の需要と供給をマッチングできる体制を整えている。 ・（住宅環境全体）移住者の視点から、インターネット上の空き家情報の充実が移住検討のきっかけになる。美幌町の空き家バンクは掲載件数が多く比較的オープンであるが、売買情報のさらなる充実と外部提供制度の活用推進が有効である。 ・住宅リフォーム支援制度について、第6次総合計画策定後に新たに制度化されたものや、制度が拡充されたものを第7期計画にしっかり反映していくことが重要である。 〈テーマ2：ユニバーサルデザイン〉 ・ユニバーサルデザインの施策が看板設置に偏って見えるが、建物・道路・公園等において障害者・高齢者が実際に利用する中で感じる不便さを当事者から直接聴取し、設計に反映する仕組みが重要である。しゃきっとプラザ建設時には障害者団体から手すりの高さ・トイレの設備等について聴取した実績がある。今後の公共施設整備でも当事者の声を反映する姿勢が重要である。 ・商店街における車椅子対応トイレの場所や動線の情報が分かりにくいことの指摘あり。Googleマップへの投稿で情報提供している実態はあるが、役場として地図化・公開する仕組みがあるとより利用しやすい。 ・音の鳴る信号機について、現在美幌町では国道の信号機のみ設置されており町が直接介入できない現状を説明。美幌町独自の音楽を鳴らすなどのブランディング要素としての活用も一案として提案した。 ・道路のユニバーサルデザインについて、2%の勾配（現行基準では平坦扱い）で

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
	も車椅子利用者には不便なケース・歩車道分離の段差等、現行制度の限界があることを説明。現行基準の中で最大限取り組んでいく。